

県立高等学校・中等教育学校（後期課程）における G I G Aスクール構想推進計画

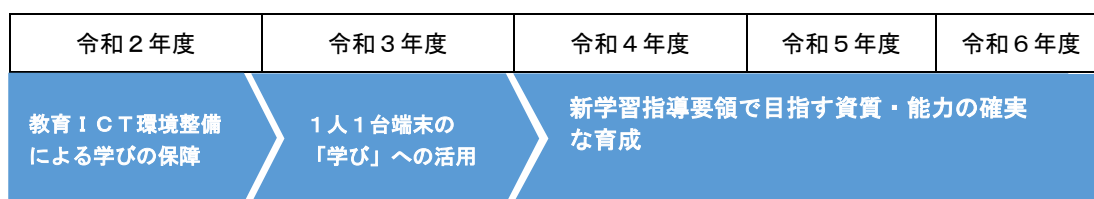
高速大容量の通信環境や校内無線LAN等の教育ICT環境を活かし、生徒1人1台端末による教育用クラウドの「学び」への活用など、G I G Aスクール構想を推進することで、新学習指導要領で目指す資質・能力の確実な育成を図る。

◇ G I G Aスクール構想とは

1人1台端末と高速通信環境の整備により

- ・子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- ・これまでの教育実践と最先端ICTとを組み合わせることで、児童生徒・教職員の力を最大限に引き出す。

県立高等学校・中等教育学校におけるG I G Aスクール構想推進計画



<令和2年度> 『教育ICT環境整備による学びの保障』

通信環境やオンライン学習環境などを整備することで、緊急時においても、ICTの活用により全ての生徒の学びを保障できる環境を実現

■教育ICT環境整備

- ・Google Workspace for Education のアカウントを配布
- ・通信ネットワーク等の整備
- ・教職員1人1台端末の整備
- ・生徒貸出用の端末及びモバイルルータの整備（家庭の通信環境への支援）

■教職員のICT活用指導力の向上

1 教職員研修及び指導主事による学校訪問指導の実施

- ・G Suite for Education 活用研修（4月～10月）
- ・ICT活用パワーアップ学習会（6月）
- ・1人1台端末を活用した授業づくり研修（9月～11月）
- ・教育の情報化ユニット研修（eラーニング）
- ・学校訪問によるICTを活用した学習指導の状況把握
- ・総合教育センター指導主事による校内研修支援

2 全教科・科目でオンライン指導の実施体制を確立（定時制課程を除く。）

■緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備（再度の臨時休業への備え）

〈令和2年9月29日付け事務連絡「県立学校におけるICT環境の整備について」から抜粋〉

実施体制が確立できている学校の状況

- ・再度の臨時休業時の対応について、生徒や保護者に周知している。
- ・家庭の環境等により、オンライン指導が困難な生徒を掌握し、代替措置を講じている。

（以下、臨時休業となった場合に）

- ・各ホームルームで、定時に、健康観察を行うとともに、一日の時程や連絡事項を示すことができる。
- ・全教科・科目で、一日の授業で取り組むべき学習内容を示すことができる。
- ・全教科・科目で、「同時双方向型」「オンデマンド型」「課題提示回収型」の組み合わせにより、学習支援を行うことができる。
- ・全教科・科目で、小テストや課題を課し、評価を行うことができる。
- ・進路相談等の申し出や、授業の質問を受け付け、対応することができる。

＜令和3年度＞ 『1人1台端末の「学び」への活用』

これまでの教育実践と1人1台端末等を適切に組み合わせることで、児童生徒の力を最大限引き出し、資質・能力を確実に育成する教育環境の実現

■生徒1人1台端末の導入

令和3年度又は令和4年度の入学生等から、学校が指定する端末を保護者負担で購入し、生徒1人1台端末の環境を実現

- ・令和3年度入学生から1人1台端末を導入する学校 35校
- ・令和4年度入学生から1人1台端末を導入する学校 14校
- ・既に1人1台端末を導入している学校（岡山操山、林野、和気閑谷）

■ 1人1台端末を活用した授業の実践

1 「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージに基づき、段階的に活用力の向上を図る。

学びの変容 段階	ステップ1 “すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 活かせる1人1台端末	ステップ2 教科の学びを深める。 教科の学びの本質に迫る。	ステップ3 教科の学びをつなぐ。 社会課題等の解決や一人一人の夢の実現に活かす。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> 検索サイトを活用した調べ学習 文書作成ソフト、プレゼンソフトの活用 一斉学習の場面での活用 一人一人の学習状況に応じた個別学習 	<ul style="list-style-type: none"> 書く過程を記録し、よりよい文章を作成（国語） 関数や図形等の変化の様子を可視化し、繰り返し試行錯誤（数学） 観察・実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察（理科） 	<ul style="list-style-type: none"> 探究プロセスにおける様々な場面（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）での活用 各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育での活用

（測定指標）

- ✓ 全生徒及び教職員が**ステップ1**にあたる活用ができる。
- ✓ 全学年の全教科で日常的に**ステップ2**にあたる活用ができる。
- ✓ 全ての学校で、**ステップ3**にあたる活用ができる。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ステップ1にあたる活用	第1学年生徒	第1・2学年生徒	全校生徒	
	(R4 端末導入校)	第1学年生徒	第1・2学年生徒	全校生徒
	全教員			
ステップ2にあたる活用	第1学年の授業	第1・2学年の授業	全学年の授業	
	(R4 端末導入校)	第1学年の授業	第1・2学年の授業	全学年の授業
ステップ3にあたる活用		全ての学校		

2 1人1台端末導入による学びの変容状況の把握

- ・ 端末が導入された学年の生徒及び教職員に対してアンケートを実施
- ・ 家庭学習時間及び学力（G T Z等）との相関をとり、端末の効果的な活用について検討

3 端末を先行導入した3校による先行研究の実施

- ・ 各教科において、育成を目指す資質・能力を確実に育むための活用方法の研究
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現する活用方法の研究
- ・ 個別最適な学びを実現するために、AI教材の活用方法を研究
- ・ 研究成果を県内へ広く普及

4 教職員のICT活用指導力の向上

- ・ 教職員研修及び指導主事による学校訪問指導の充実

5 端末未導入校への対応

- ・令和3年度端末未導入校については、令和4年度の円滑な導入に向けて、先進校への視察、校内研修等により教職員の指導力の向上を図るとともに、貸出用端末等を活用した実践に努める。

6 端末未導入学年への対応

- ・端末未導入の学年については、貸出用端末等を活用した実践に努める。

■学校外での教育用クラウドの活用

1 家庭学習の充実

- ・家庭学習の質向上や時間増加に向けた教育用クラウドの活用

2 県統一ドメインのアカウントの活用

- ・県統一ドメインのアカウントによる学校の垣根を超えた「学び」の創造

3 やむを得ず登校できない生徒への対応

- ・教育用クラウドを活用した連絡体制の確立